

文芸部座談会 11月6日 『ローソクの炎 ハンセン病元患者の心の奇跡』 林東植著作

はすみさん： では、座談会をはじめます。

はすみさん： この本を読んでどう思ったかな？

はすみさん： 私は、差別と偏見に立ち直る姿に心打たれたなー。  
強く生きる姿が印象的だったなー。

らいむさん： はい👍

なつきさん： はい👍



らいむさん： 私も、そう思いました。差別や偏見は良くないですよー。

なつきさん： 厳しい状況の中で立ち向かい生きていく姿から逆境に立ち向かう人間の強さを感じました。(感動)

はすみさん： けど、80年前に10才くらいの林さんは苦勞したんだなと思いました。

らいむさん： おー、確かに、確かに、今の時代、外国人差別は良くなってきたと思うなー。

なつきさん： うーん、若い世代の中だけかもしれないですよ。私は、祖父母世代の人はまだ差別的な考え方が残っている気がします。😞

はすみさん： 確かに昔と比べたら少しは改善されたと思うなー。あ、思い出した。そういえば私が中学生の頃 中国出身の人が転校してきたけれどみんな仲良く話したりしていたよー。

らいむさん： ところで、この本のどういう部分に差別を感じたの？

なつきさん： 朝鮮人だからと住む場所を限定されたり、差別をうけるのはおかしいことだと思いました。自分がされて嫌なことは人にしないなど、子どもでも分かるようなことをしていたことに驚きました。全く同じ人間なんていないから尊重し合って生きていくべきだと思いました。

らいむさん： ○○だからとか、人を勝手に決めつけるのはよくないですよー。

はすみさん： 『ローソクの炎』を読んで印象的だった部分はありますか？

らいむさん： 父が自分の子供へ拒絶するシーンがすごく印象的だったな。本心からでたものではないと言われても、半笑いで、自分がムンディー（注１）じゃないからといって指を指す部分は、心にぐさっと刺さりました。読んでて少し泣きそうになりました。

なつきさん： 小学生の時に先生から言われた、「言葉はナイフです。言葉のナイフで付いた傷は普通の傷のように治りません。」という言葉思い出しました。この言葉を聞いて、より言葉に気をつける様になりましたね～。

はすみさん： もうこのようなことがないようにするにはどうすればいいと思いましたか？  
また、自分には何ができると思いましたか？

らいむさん： みんなが生きやすいと思えるような社会を作っていくためにも、新たな考えを自分自身に取り入れて、考えて言葉を選んで使っていきたいと思います。

はすみさん： 差別をなくすには、一人ひとりの理解や意見、多様性を尊重すればもっと住みやすい社会になるのではないのかなと思いました。また、誤った偏見などでも差別は起こるものだと学ぶことができました。今自分にできることは、自分の目で見てその事が本当に正しいのか確認することが今私達ができることだと思いました。

なつきさん： 人によって考え方や感じ方は違うと思うので世界中の人が互いに認め合っていくことでより、自由で生きやすい世界になると思いました。答えは一つだけでは無いと私は思います。

なつきさん： みんなで同じ本を読んで感想を言い合う機会があまりなかったのでとても新鮮でした。



らいむさん： 楽しかったですね。またやりたいですね。😊

（注１） 韓国（慶尚道）の訛<sup>なま</sup>りで「ハンセン病」を指す

